

## オープン カレッジ

ゼミ生に経営（ビジネス）の意味を尋ねるといろいろな解答が返ってくる。「社会貢献」「従業員の幸せ」「利潤の追求」などなど。実際、メディアなどでの一流といわれる上場企業経営者のインタビューなどでも十人十色の解答あり、何が正解なのかもよくわからない。しかしながら、その本質は「継続した投資と回収のしくみと活動」。これしか経営をシンプルかつ的確に言い表している

### 継続した投資、回収のしくみと活動

## シンプルな

## 経営の本質

言葉はない。すなわち、何かに投資をして、それを回収する。

ここで言っている投資、



愛知淑徳大学ビジネス学部教授  
公認会計士 前田 篤

前田 篤

まえだ・あつし 専門は監査論、会計実務。慶応義塾大学経済学部卒業。監査法人伊東会計事務所（現PWC Japan）有限責任監査法人などを経て現職。1959年生まれ。

回収とは資金の投資、資金の回収の意味である。そして、その回収した資金をまた、投資に回し、これを繰り返していくことが経営の本質である。この投資、再投資、再々投資の循環活動が経営なのである。さらにこの投資、再投資、再々投資の活動により、より多くの資金で投資、再投資、再々投資を繰り返し続けていくことが企業の成長であり、逆にこの循環の輪が小さくなってしまうことが企業の衰退、次の再投資ができずにこの循環活動が止まってしまうことが倒産である。

例えばソフトバンクグループは、世界中から人工知能（AI）、自動運転、フintテックなど将来、大きく成長するであろうビジネスを探してきて、巨額の資金を調達し、買収することにより企業の成長、拡大を図っているのである。会計的には、突っ込んだカネ（投資）に対してこれだけのリターン（回収）があるのかをみる指標として、ROI（総投資利益率）、ROE（自己資本利益率）があり、これらの指標を改善し続けることが経営者にとっての重要なミッションなのである。

一方、「経営の三種の神器（経営に必要な3資源ともいわれるが）」に、「人」「モノ」「カネ」がある。最近ではこれに「情報」を加えて4資源としたりもしている。これらもそのひとつひとつについてよく考えてみると、まず、最初に必要なものは「カネ」である。まず、「カネ」を調達して、その「カネ」を使い、優秀な人材を採用し、「人」優れた製品開発したり、優れた商品を仕入れたり「モノ」することができるのである。つまり、この順番としては、「人」「モノ」「カネ」ではなく、「カネ」「人」「モノ」なのである。先程の投資、回収の話と関連づければ、調達した「カネ」を使い、これを「人」「モノ」に変え、これを投資し、資金（カネ）として回収しているのである。「情報」に関しても「カネ」は必要である。

優秀な上場会社の経営者が、わが社の経営目標は社会貢献であるとか従業員幸せであるとか言えるのは、ここで説明した経営の本質である「継続した投資と回収のしくみと活動」を正確に理解し、これがうまくいっているからなのである。

経営に限った話ではないが、物事はシンプルに考えるとその本質が見えてくるものである。